

平成 27 年度後期 名古屋大学大学院共通科目 授業案内

Nagoya University Graduate School Common Courses
Course Information
Fall Semester, 2015



Relationships & Comm.,
Academic Writing,
Presentation, etc.



藝術リテラシー
etc.

名古屋大学教養教育院

Institute of Liberal Arts and Sciences
Nagoya University

平成27年度後期 授業科目一覧

Fall Semester Schedule 2015

授業科目 Course Title	単位数 Credits	教員 Instructor	曜日・時限 Day・Hour	講義室 Class Room	ページ Page
体験型講義「マネジメント」	2	栗本 英和	集中	Ace Lab S	3
体験型講義「エンプロイアビリティ」	2	河野 廉 森 典華 船津 静代 栗本 英和	月・5	情科棟1階 第2講義室	4
Personal Transformation	2	Go Yoshida	Tue. 2	S21	5
藝術リテラシー（絵画論Ⅱ）	2	山本 富章	火・2	C23	6
藝術リテラシー（音楽Ⅱ）	2	小林 聡	火・5	国言棟4階 ビデオスタジオ	7
藝術リテラシー（レクチャーコンサートⅡ）	2	白石 朝子 高木彩也子	木・5	国言棟4階 ビデオスタジオ	8
アクティブラーニングの技法	1	中島 英博	水・2	文系総合館 5階510	9

Mei-Writing

Academic Writing II (A)	English	2	Paul W. L. Lai	Tue. 3	C12	10
Academic Writing II (B)		2	Chad Nilep	Wed. 4	C12	11
Academic Writing II (C)	German	2	Markus Rude	Fri. 4	C36	12
Academic Writing II (D)	French	2	Nicolas Baumert	Mon. 4	A24	13
Academic Writing II (E)	Chinese	2	Jian Lu	Mon. 4	A12	14
Academic Writing II (F)	English	2	Deacon, (Robert) Joel	Fri. 4	C32	15
Presentation II (A)	English	2	Mark Weeks	Fri. 3	A11	16
Presentation II (B)		2	David Toohey	Wed. 2	サブラボ B	17

申請方法 How to Apply

【連絡事項】

Academic Writing II (A) 受講希望者は、学生番号、氏名、所属研究科・専攻、電話番号、メールアドレス、受講理由を明記し、meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp あて 2015 年 9 月 30 日(水)までに事前に連絡をすること。

【Note】

If you are interested in taking this course, you are required to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp, explaining why you want to take this course. Due to the high demand of enrollment request for this course, you are advised to send the email as early as possible, preferably by September 30, 2015.

①

第1回目の
授業に出席
Attend your
First Lesson

受講を希望する人は、受講申請票(p.19)を持参して第1回目の授業(後期授業：10月1日(木)～)に必ず出席してください。授業担当教員の受講許可が得られた場合は、授業担当教員に受講申請票(p.19)を提出してください。但し、受講調整を行うこともあります。その方法については、第1回目の授業で説明します。

If you wish to take any one of the courses, come to the first lesson (10/1-) of the course that you wish to take with the “Registration Application Form” (p. 19). If you are permitted to take the course, submit the “Registration Application Form” (p.19). However, note that space is limited. Students will be informed whether or not they are accepted to take the course in the first lesson. Details will be announced at the first lesson.

②

所属研究科
で履修登録
Register for
class yourself

受講を許可された人は、所属研究科教務担当係で必ず履修登録をしてください。(登録の締切日は所属研究科担当係に確認して下さい。)受講を許可された人で、受講を取りやめる場合は必ず授業担当教員に連絡して下さい。

Students who are accepted are required to register for the course at the administration office of their respective graduate school. Since the registration deadline varies from school to school, students are advised to check the deadline of their own graduate school.

Those who are accepted but decide not to take the course, contact the course instructor as soon as possible.

■詳細については、下記 URL をご覧ください。

For the detailed information, please go to the following website.

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/gradschoolssubject/>

<http://meiwriting.ilas.nagoya-u.ac.jp/>

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	後期・集中	-	-
科目名 【Course Title】	担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】	
体験型講義「マネジメント」	栗本 英和	Ace Lab S	
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
体験型講義1「リーダーシップ」と体験型講義2「マネジメント」をセットで受講することを勧めます。			2
目的と目標 【Course Objective】			
<p>体験型講義の目的は、研究分野の枠組を超えて求められる、リーダーシップ、マネジメント、チーム・ビルディング等に関する基本概念を、体験を通して会得すると同時に、事例分析や比較分析を通して、その基本知識を体系的に学修することです。大学院での教養教育は、仲間や同僚を牽引する中核的な資質・能力を養います。リーダー教育ともよばれ、社会から求められています。</p> <p>マネジメントは抽象的な概念であるために、本質的な考え方や見方が誤認されやすく、日本では「管理」と見なされたり、その習得も現場での勘と経験と度胸と呼ばれるような実践型訓練に依存しています。</p> <p>本講義では、真の勇気と知性を備えた牽引者像の具現化と現実解を創出する資質・能力の醸成を目指すため、研究分野の枠組を超えて、求められるマネジメントとは何かを主題に、類似した概念との相互比較や事例分析から、マネジメントの概念を深掘りし、組織的活動におけるマネジメントの概念とBrainstormingによって基礎知識を習得します。</p>			
内容と計画 【Course Content】			
<p>2-1 価値創造とマネジメントに関する基本知識と基本概念を、事例から学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4つの理念：価値創造、独自能力、実践コミュニティ重視、社会との調和 ○7つの観点：関係者からみた質、リーダーシップ、プロセス志向、対話による知の創造、全体最適、連携・協力関係、公正原則 <p>2-2 プロセスのメンタル・モデルを形成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Problem Based Learningによる経営シミュレータを使った因果モデルの構築 ○組織の経営や運営を想定した、経営者と実務者の見方や考え方の違いを体感 <p>2-3 システムのロジック・モデルを形成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○部分最適から全体最適のマネジメントを通した論理モデルの構築 ○二者択一を両立に変える対立ジレンマの解消クラウドの思考法 <p>2-4 Scenario Planningによる組織マネジメントを理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○MBAで行われているケースメソッドによるプレーン・ストーミング ○ボトムアップ型チームとトップダウン型チームの比較分析 <p>2-5 Strategic Planningによる戦略的・実践的なマネジメントを理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Project Based Learning による経営理念と施策方針の構築 ○ビジネスモデルの企画と評価、ナレッジマネジメントの効用 <p>2-6 本講義で得た学修成果を共有します。</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
課題解決のための分析力・洞察力・対話力・評価力(60%)、講義への参画や姿勢(40%)			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
講義のなかで示します。			
連絡先 【Contact Address】			
<p>教養教育推進室 栗本英和 kuri(at-mark)info.human.nagoya-u.ac.jp at-mark を@ にしてください。</p>			
連絡事項 【Notes】			
<p>体験型講義は、社会人からのニーズを実際に調査し、社会から真に求められる資質・能力を醸成する教育プログラムとして、担当講師、受講生、修了生が協働して開発を進めています。</p> <p>想像力を醸成し、考案と協調を促進する場である「エース・ラボS」で実施するため、収容数に限りがあります。</p> <p>※受講生の要望により、10月～11月の土曜日に開講を予定しています。</p> <p>※アドバンスコースとして、体験型講義3「チーム・ビルディング」で総合力を培い、体験型講義4「エンプロイアビリティ」で博士後期に繋がる実践力を身につけます。</p>			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	後期	月	5
科目名 【Course Title】		担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】
体験型講義「エンプロイアビリティ」		河野 廉、森 典華、 船津静代、栗本英和 (協力：玉井克幸(リサーチ アドミニストレータ))	情報科学研究科棟 1階 第2講義室
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
基礎段階として、体験型講義1「リーダーシップ」、体験型講義2「マネジメント」 実践段階として、体験型講義3「チーム・ビルディング」			2
目的と目標 【Course Objective】			
<p>体験型講義は、研究分野の枠組を超えて求められる、リーダーシップ、マネジメント、チーム・ビルディング等に関する基本概念を、体験を通して会得すると同時に、事例分析や比較分析を通して、その基本知識を体系的に学修することを目的とする。</p> <p>本講義は、体験型講義のアドバンスコースとして、自らのキャリア・ライフを考え、多彩なキャリア・パスの中から自分に適した資質・能力を形成する糸口を掴むため、『座学』と『グループワーク (PBL) 』という形で進めていきます。『座学』では、自己理解、基礎的スキル等を知り、その理解とスキルを「グループワーク」で、体感します。</p>			
内容と計画 【Course Content】			
01. キャリアデザインの必要性 02. グループワーク研修 (キャリアデザイン) 03. グループワーク：スモールビジネスを対象としたPBL 04. グループワーク：産学連携・人材育成を対象としたPBL 05. ファイナンシャルプラン – ライフプランに即した資金計画 – 06. 研究者になる為のスキルと準備 – アカデミックポジションへの道 – 07. 課題解決に向けた最終プレゼンと評価 08. 自己理解の醸成と振り返り 09. まとめ			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
課題解決のための分析力・洞察力・対話力・評価力 (60%)，講義への参画や態度 (40%) 詳細は講義で示します。			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
講義のなかで示します。			
連絡先 【Contact Address】			
—			
連絡事項 【Notes】			
本講義は社会貢献人材育成本部・ビジネス人材育成センター、リサーチ・アドミニストレータ (URA) 室、教養教育推進室との協働により、博士後期課程に注目した、実効性あるプログラムの開発を目指しています。体験型講義のアドバンスコースとして、体験型講義3「チーム・ビルディング」では総合力を、体験型講義4「エンプロイアビリティ」では後期課程で求められる実践力を培います。			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	Fall	Tue	2
科目名 【Course Title】	担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】	
Personal Transformation	Go YOSHIDA	S 2 1	
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
This class, taught in English, is also open to select undergraduate students. Contact the professor if you are interested.			2
目的と目標 【Course Objective】			
<p>●Desired Learning Outcomes</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Self-Awareness 2. Self-Discipline 3. Courage 4. Leadership <p>●Topics Covered</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mental Training ・ Decision Making ・ Blame ・ Courage ・ Forgiveness ・ Personal Finance ・ Time Management ・ Physical Management ・ Relational Management ・ Life Purpose 			
内容と計画 【Course Content】			
<p>●Course Description</p> <p>Wherever we are in life, whether going over a crest or through a trough, there are issues in our lives that we could improve if not address. This class will help students get rid of some of the noise, weights, and distractions in your lives-procrastination, blame, resentment grudges and bitterness, meaninglessness, and/or your unhealthy habits-that are holding you back from the person you desire to be.</p> <p>Through initiative, reflection, sharing, learning, and action, students in this class will be challenged to be honest with themselves, transparent with others, open to feedback, and with a thirst for betterment for sustainable change-transformation-to take shape. This class is for the individual who is highly motivated to change him/herself, to be better prepared for the next stage after university, as a responsible adult in society.</p> <p>My classes go beyond the ‘academics’ and are designed to develop life skills(いきる力)-skills needed in life regardless of major, profession, or aspiration-by stimulating both mind and heart. This takes shape in the form of a three-way approach to teaching-through class time, assignments, and individual meetings.</p> <p>Through these classes, engaged students will be better prepared for life after university, through the transformation of the mind.</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ Assignments 25% ・ Mini Tests 25% ・ Final Project 50% 			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Brown, Brene, The Gifts of Imperfection: Let Go of Who You Think You're Supposed to Be and Embrace Who You Are (Hazeldon; September 2010). 2. Gordon, Jon, Training Camp: What the Best Do Better Than Everyone Else (First Edition; Wiley; May 2009). 3. Note book. 			
連絡先 【Contact Address】			
go.yoshida@d.mbox.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 【Notes】			
—			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	後期	火	2
科目名 【Course Title】		担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】
藝術リテラシー(絵画表現と造形手法Ⅱ)		山本 富章	C 2 3
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
本授業は、理論ではなく、実技を中心としたもので、美術に関心がある方ならすべてOK。			2
目的と目標 【Course Objective】			
<p>「美しいものが成立するということはどのようなことなのか？」という問いを掲げ、自らの制作者としての経験に基づきながら、絵画を含む美術を生み出す(制作する)行為の中に存在する様々な要素を考察しつつ、美しいものが成立するということはどのようなことなのかを明らかにし美術表現に対する理解を高めようとするものである。</p>			
内容と計画 【Course Content】			
<p>美術作品は単純に生み出されただけでは成立しない。制作するという行為のほかに、作品が成立する場、さらにそれを観る者が必要である。</p> <p>たとえば、油彩による絵画を最終的な表層が作り出したもの(イメージ)だけで判断するのではなく、キャンバス、膠、地塗り、絵の具層などの素材に着目し、積層構造としてとらえることが必要である。</p> <p>油彩実技に踏み込むことまではしないが、フロタージュ、コラージュなどもっとも単純な技法などから「絵画」を生み出す行為の実際・実践に触れながら、自らの手を通した触知的行為から現れてくるものを考えることとしたい。</p> <p>さらに、美術が生まれる場としての空間、展覧会場に並んだ作品を通して、鑑賞する(見る)ということを様々な角度から改めて問いかけたい。</p> <p>実習を繰り返すことから感じるもの、見えるものなど、感覚を通してとらえたものを、それぞれの個に還元しながら表現に対する理解を高めたい。</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
<p>(1) 後期一回の鑑賞に関するレポートを課題に応えるかたちで提出。</p> <p>(2) 実習(自分の気に入った課題二課題を提出)。</p> <p>(1) (2)の総合で評価する。6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。</p>			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
—			
連絡先 【Contact Address】			
—			
連絡事項 【Notes】			
授業に必要な画材は初回において説明するが、スケッチブック、描画材(絵具・鉛筆)などを使用する。			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	後期	火	5
科目名 【Course Title】		担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】
藝術リテラシー (音楽Ⅱ)		小林 聡	国言棟4階 ビデオスタジオ
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
基本的な楽譜の読み方(義務教育レベル)がわかること。和音(コード)など西洋音楽の骨格となる簡単な理論を理解しているとなおよい。			2
目的と目標 【Course Objective】			
本授業では、中世・ルネサンスの音楽から現代音楽や現代のポップ・ミュージックまでの各時代における興味深い作曲家や音楽作品等について作曲法・楽器法・管弦楽法の観点から分析し、演奏技術と作曲技術の変遷・発達を考える。			
内容と計画 【Course Content】			
第1回 ルネサンス時代の鍵盤音楽 第2回 バロック時代の音楽 バッハとその周辺 第3回 ロココ時代の音楽 フランスとイタリアの音楽を中心に 第4回 モーツァルトの交響曲とピアノ作品 第5回 ベートーヴェン交響曲第5番 第6回 ショパンピアノ協奏曲第1番 和声とピアノピアノニズムを中心に 第7回 シューマンのピアノ作品 性格的小品とピアノソナタ 第8回 シューマンとグリーグのピアノ協奏曲 第9回 ロシアの3大ピアノ協奏曲 第10回 ラヴェルの管弦楽法 第11回 20世紀後半におけるフランスのポップ・ミュージック 第12回 ペンデレツキの音楽 交響曲1番とヒロシマを中心に 第13回 ユッカ・ティエンスーの音楽 MXPZKLを中心に 第14回 現代日本の協奏曲 第15回 楽器の表現力			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
出席、授業中に行う課題、提出レポートを総合的に評価する。 6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
●教科書 特になし。必要に応じてプリントを配布する。 ●参考書 対位法 長谷川良夫著 音楽之友社 楽式論 石桁真礼生著 音楽之友社 総合和声 実技・分析・原理 島岡譲著 音楽之友社 Stylistic Harmony Work Book Anna Butterworth 著 Oxford University Press Inventing Finnish Music Kimmo Korhonen Finnish Music Information Centre A History of the Concerto Michael Thomas Roeder著 Amadeus Press Orchestration Walter Piston著 W.W.Norton & Company			
連絡先 【Contact Address】			
—			
連絡事項 【Notes】			
音楽作品を鑑賞する際には、実際のコンサートで聴いているつもりでのぞんでください。また、授業中に音楽の断片を書く実習も行ないたいと思っていますので、五線紙も用意してください。 後期は、前期で概観した音楽史の流れを踏まえながら、今まであまり顧みられなかった作曲家や作品も含め、各時代における興味深い作曲家や音楽作品等について作曲法・楽器法・管弦楽法の観点から分析したいと思います。			

年度(西暦)【Year】	開講期【Term】	曜日【Day】	時限【Period】
2015	後期	木	5
科目名【Course Title】		担当教員【Instructor】	講義室【Class room】
藝術リテラシー（レクチャーコンサートⅡ）		白石 朝子、 高木 彩也子	国言棟4階 ビデオスタジオ
履修条件あるいは関連科目等【Enrollment Conditions, etc.】			単位【Credits】
音楽的な能力・経験等は問わないが、音楽を単に聴いて楽しむだけでなく、学問的にも理解することへの意欲が求められる。			2
目的と目標【Course Objective】			
愛知県立芸術大学博士課程の修了生である、現役の演奏家が講師を務める。授業では、講師による演奏を交えながら、クラシック音楽を通史的に学び、時代や作曲家による音楽作品の違いを感じ取る。			
内容と計画【Course Content】			
<p>「ピアノ音楽史」（担当：白石） 「歌う音楽史」（担当：高木）</p> <p>講師プロフィール…白石朝子（愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了、ピアノ） 高木彩也子（愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了、声楽）</p> <p>なお、この授業は、愛知県立芸術大学と名古屋大学の大学間連携によって、井上さつき（愛知県立芸術大学音楽学部教授）と藤井たぎる（名古屋大学国際言語文化研究科教授）の監修のもとに開講されます。</p> <p>●「ピアノ音楽史(全7回)」 （担当：白石）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ音楽の様式の変遷を、時代背景や社会文化の解説と、作品の実演を交えながら、時代を追って総合的に講義する。 <ul style="list-style-type: none"> ・バロックのクラヴィーア作品（クーラン、スカルラッティ、バッハなど） ・古典派のピアノ音楽（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン） ・19世紀のピアノ音楽（ショパン、リストなど） ・近現代のピアノ音楽（ドビュッシー、ラヴェルなど） ・日本人とピアノ音楽（松平頼則、大澤壽人など） 2. 調律師や弦楽器奏者、管楽器奏者をゲストに迎え、ピアノの構造や室内楽作品についても学ぶ。 <p>●「歌う音楽史(全7回)」 （担当：高木）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 声楽曲の様式の変遷 時代背景および社会文化の解説と、講義に関連する作品の講師実演を交え、総合的に講義する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中世・ルネサンス～後期ロマン派の声楽作品 2. 声の仕組み、発声法に関する講義も設ける(受講生による実践あり)。また適宜、歌手などのゲストを迎え実演し、「声」に対する理解を深める。 <p>第15回は、総集編として、講義内容を踏まえたコンサートを行う。</p>			
成績評価の方法と基準【Grading Basis】			
<p>学期末にレポートを課す。 出席状況、及び、毎回授業で配布するコメントカードで総合的に評価する。 6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。</p>			
教科書、参考書、参照情報等【Textbook, Reference book, etc.】			
<p>●教科書 授業内でプリントを配布する。</p> <p>●参考書 久保田慶一ほか『はじめての音楽史——古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社、2009年。 『西洋の音楽と社会』シリーズ、全12巻、音楽之友社、1996-1997年。 その他、授業内で適宜紹介する。</p>			
連絡先【Contact Address】			
asakoro1983@yahoo.co.jp（白石）、ayakocchan@yahoo.co.jp（高木）			
連絡事項【Notes】			
<p>総合大学の学生にとって、クラシック音楽を聞いたり演奏したりする機会はそれほど珍しくないと思いますが、生の演奏を耳にしながら音楽の歴史を学ぶ、という経験は初めてではないでしょうか。この授業では、五感を使ってクラシック音楽に触れ、それが社会の中でどのように変化してきたかを学ぶことで、皆さんが音楽文化に一層の興味をもつきっかけとなればいいと思っています。後期は、「ピアノ音楽史」と「歌う音楽史」をテーマに講義を行います。</p>			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	後期	水	2
科目名 【Course Title】		担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】
アクティブラーニングの技法		中島 英博	文系総合館510 アクティブラーニング スタジオ
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程1 年生以上の学生を対象とする。TA採用予定者を歓迎する。 ・将来開発される「TA セッション」を担当するための研修プログラムとして位置づける。 			1
目的と目標 【Course Objective】			
<p>将来授業支援者として演習科目を担当する見込みのある大学院生を対象に、学生の主体的な学習を支援する指導法を習得することを目的とする。</p> <p>具体的には、アクティブラーニングの特徴と課題を理解した上で、学生の動機づけ、学生への問いかけ、議論の円滑な支援、学生同士の学習活動への介入などの方法論を獲得の獲得を目標とする。</p>			
内容と計画 【Course Content】			
<p>ナレッジ・スキルセッション (4 コマ)</p> <p>模擬授業 (アクティブラーニングの技法を取り入れたマイクロティーチング (3 コマ))</p> <p>リフレクションセッション (1 コマ)</p> <p>具体的な実施計画は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アクティブラーニングを理解する アクティブラーニングの特徴や課題、教授法の特徴を扱います。 2. 発問と指示で思考を刺激する 発問の類型を知ると共に効果的な与え方を理解し、実際に指導計画を立てます。 3. ディスカッションを導く 学生の議論を深い学習にするための準備と運営のスキルを理解します。 4. 学生を相互に学ばせる 学生同士での教え合いや協同学習の準備と運営のスキルを理解します。 5. 模擬授業1 これまでの技法を用いて、実際に授業を運営します。 6. 模擬授業2 これまでの技法を用いて、実際に授業を運営します。 7. 模擬授業3 これまでの技法を用いて、実際に授業を運営します。 8. アクティブラーニングの効果を高めるノウハウをまとめる 授業の内容と模擬授業の経験を振り返り、自分だけの教授法ノートをまとめます。 			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
授業への参加・小課題 (模擬授業を含む) 60% 期末レポート (教授法ノート) 40%			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
<p>教科書：中井俊樹ほか(2015)『シリーズ大学の教授法3 アクティブラーニング』玉川大学出版部</p> <p>参考書：指定しない</p>			
連絡先 【Contact Address】			
—			
連絡事項 【Notes】			
<p>名古屋大学では国際化の一環として、週1 回の授業から週複数回の授業への転換、及び講義等の英語化にあわせて、TAが担当する演習・実験・ディスカッション (TA セッション) とする準備を進めている。</p> <p>本授業は、より深く教育活動の関わることを期待されるTAの研修と位置づけられ、従来のTAとは異なる特別なTAの採用条件として活用することを想定している。</p>			

年度(西暦) 【Year】 2015	開講期 【Term】 Fall	曜日 【Day】 Tue	時限 【Period】 3
科目名 【Course Title】 English Academic Writing II	担当教員 【Instructor】 Paul W. L. Lai	講義室 【Class room】 C 1 2	
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】 (1) Graduate students who are able to take classes, and communicate, in English. (2) Preference will be given to those who are planning to submit abstracts to international conferences or journals.			単位 【Credits】 2
目的と目標 【Course Objective】 <p>The two-semester graduate course has been developed since 2008 based on a new teaching method that integrates the training of logical thinking skills into the training of academic writing. Its primary goal is to help graduate students, through a step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper for publication at a high international level. In the spring semester students will mainly learn how to develop a preliminary thesis statement (main research idea) for their respective research, and a logical argument for the thesis statement. In the autumn semester students will mainly learn how to incorporate the thesis statement and logical argument into an abstract, introduction, and learn how to develop a counterargument or advanced argument. After successfully completing the entire course, the students should be in a good position to complete and send their papers for publication. Those who succeed in having at least one English abstract accepted for publication during the course might be employed as a teaching assistant of Mei-Writing.</p>			
内容と計画 【Course Content】 <p>The specific goals in the 2nd semester are to help the students (i) write a high quality abstract and introduction for their research, and (ii) strengthen the logical argument developed in the 1st semester by developing a counter-argument. The semester will cover the following lessons:</p> <p>Lesson 1: Reviews on thesis statement and logical argument. Lesson 2: How to write a high-quality abstract. Lesson 3: Student presentation on abstract. Lesson 4: Student presentation on abstract. Lesson 5: Student presentation on abstract. Lesson 6: How to write a high-quality introduction. Lesson 7: Student presentation on introduction. Lesson 8: Student presentation on introduction. Lesson 9: Student presentation on introduction. Lesson 10: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 1. Lesson 11: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 2. Lesson 12: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 3. Lesson 13: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 4. Lesson 14: Advanced topics on logical argument and counter argument - part 5. Lesson 15: Review, reflection, and course evaluation.</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】 <p>Students who need the course credits are required to meet the following conditions:</p> <p>(1) Attendance must be over 80% (2) Two oral presentations ((i) abstract, (ii) introduction)</p>			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】 <p>The course instructor has developed a series of course materials, including (i) step-by-step guide on how to build a thesis statement, (ii) step-by-step guide on how to build a logical argument, (iii) template on how to write a high quality abstract, (iv) template on how to write a high quality introduction, etc. All these materials are free, and will be available for download at the course web site.</p>			
連絡先 【Contact Address】 meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 【Notes】 <p>(1) If you are interested in taking this course, you are required to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp, explaining why you want to take this course. Due to the high demand of enrollment request for this course, you are advised to send the email as early as possible, preferably by September 30, 2015. (2) Whether or not you are selected to take this course, please attend the first lesson. (3) The first lesson of the course will commence on October 6, 2015.</p>			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	Fall	Wed	4
科目名 【Course Title】		担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】
English Academic Writing II		Chad Nilep	C 1 2
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
The course is open to graduate students in any field. You must be able to communicate effectively in English.			2
目的と目標 【Course Objective】			
This course develops skills of academic research writing and logical thinking. Its goal is to help graduate students understand how to incorporate sources into their writing and to write a literature review. Students will make an annotated bibliography and deliver an oral presentation.			
内容と計画 【Course Content】			
<p>The course uses group discussion among students and the instructor. For this reason, all participants must be able to communicate in spoken and written English. You should be prepared to discuss actively. This includes asking questions and sharing your ideas. There are also some course readings—typically short pieces written in English—to be read before class meetings.</p> <p>These are the major questions to be addressed.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. What is a literature review, and why should I write one? 2. What is a thesis statement, and how do I write one? 3. What is plagiarism, and why is it considered a problem? 4. What is a logical argument? How can outside sources support my argument? 5. How do I write summaries, paraphrases, and quotations? How do I cite the sources of my information? <p>Students will prepare an annotated bibliography of sources that support their own current or planned research project, often their graduation thesis. Students will deliver an oral presentation introducing their field to other students and explaining how their own research relates to work in their field.</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
Students who enroll for course credit are required to meet the following conditions: attend at least 80% of meetings; prepare an annotated bibliography; deliver one oral presentation. Students who wish to observe the course for no credit may request to do so.			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
A password-protected website will be introduced during the first meeting. Some materials are developed by the instructor and are free; others are copyrighted and can only be used in this course.			
連絡先 【Contact Address】			
Office:国際言語文化研究棟409号 E-mail:Nilep@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 【Notes】			
Enrollment is limited to 20 students.			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	Fall	Fri	4
科目名 【Course Title】		担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】
German Academic Writing II		Markus Rude	C 3 6
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
Studierende in Master- oder Doktorkursen, Wissenschaftler und Lehrende; fuer japanische, deutsche und sonstige Muttersprachler.			2
目的と目標 【Course Objective】			
<p>Zweck des Kurses ist die Anwendung Akademischen Schreibens, daneben aber auch das Ueben akademischer muendlicher Interaktion durch Praesentieren und Diskutieren. Ausgehend von der Planung eines konkreten Schreibprojekts - zum Beispiel eine laengere Zusammenfassung oder ein Forschungsplan - werden Teilnehmende individuell ueber den Kursverlauf angeleitet. Weiterhin werden in diesem Kurs effektives Praesentieren und Vortragen sowie konstruktives Diskutieren vermittelt und geuebt.</p> <p>Teilnehmende werden am Ende des Kurses in der Lage sein, auch in einem internationalen Setting erfolgreich akademisch zu kommunizieren.</p>			
内容と計画 【Course Content】			
<p>Zu Beginn des Kurses geht es um die Festlegung eines konkreten Schreibprojekts und um die Erarbeitung eines realistischen Zeitplans. Idealerweise steht am Ende des Kurses eine Veroeffentlichung, bei dem Projekt kann es sich aber beispielsweise auch um einen Forschungsplan oder um eine Praesentation handeln.</p> <p>Daneben stehen pro Unterrichtseinheit ca. 30 Minuten fuer 5-Minuten-Praesentationen zur Verfuegung, in denen ein Kursteilnehmer oder ein Gast einen kurzen Vortrag ueber ein Fachgebiet haelt, ueber den anschließend ca. 20 Minuten diskutiert wird.</p> <p>Vermittelte Elemente sind (unter anderem)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Schreibprojekte planen, - effektive Praesentationen und Foliengestaltung, - professionelle Vortraege und Handouts, - Redemittel fuer akademische Diskussionen, - Besonderheiten bei internationalen Teilnehmenden und - die Sache mit der "secondary audience". 			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
Anwesenheit (mindestens 60% sind fuer einen Schein erforderlich), aktive Teilnahme (40%), Schreibprojekt & 5-Minuten-Praesentation, oder aber zwei 5-Minuten-Praesentationen (60%).			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
<p><u>Empfohlene Literatur:</u></p> <p>Backhaus, Anke, Ilse Sander und Johanna Skrodzki: Mittelpunkt - Intensivtrainer schriftlicher und muendlicher Ausdruck. Stuttgart: Ernst Klett Sprachen. ISBN 978-3-12-676614-2</p> <p>Buchner, Patricia: Campus Deutsch - Schreiben (B2/C1). Hueber Verlag. ISBN 978-3-19-101003-4</p> <p>Ebel, Hans F. & Bliefert, Claus: Bachelor-, Master- und Doktorarbeit: Anleitungen fuer den naturwissenschaftlich-technischen Nachwuchs. Wiley-VCH. ISBN 978-3-527-32477-4</p> <p>Esselborn-Krumbiegel, Helga: Richtig wissenschaftlich schreiben. Verlag: UTB. ISBN 978-3-8252-3694-6</p> <p><u>Sonstige Materialien:</u> Per Handout oder Internet.</p>			
連絡先 【Contact Address】			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 【Notes】			
Der Kurs ist auf Deutsch, aber das Schreibprojekt und Praesentationen koennen - nach Ruecksprache - auch auf Englisch sein. Weitere Fragen werden gerne beantwortet.			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	Fall	Mon	4
科目名 【Course Title】		担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】
French Academic Writing II		Nicolas Baumert	A 2 4
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
S'assurer de la validité d'une inscription universitaire et avoir un projet de recherche sur lequel travailler.			2
目的と目標 【Course Objective】			
Le but de ce cours est d'aider les étudiants à développer les bases de l'écriture académique en français. L'approche est multidisciplinaire. Il s'agit d'apprendre à rédiger un texte clair et convaincant visant à la publication d'une première contribution scientifique. A la fin du cours, les étudiants seront capables d'écrire en français au moins un résumé ou un projet de recherche.			
内容と計画 【Course Content】			
<p>Le cours propose des exposés méthodologiques, des exercices et des ateliers d'écriture. Il s'organise en 3 parties.</p> <p>(1) Introduction aux règles de la rédaction en français et à ses principales difficultés (formulation d'une thèse ou d'une problématique, plans, ...).</p> <p>(2) Analyse critique de textes scientifiques (articles, comptes-rendus d'ouvrages, ...)</p> <p>(3) Travail de rédaction de la part des étudiants à partir de leurs propres recherches. Le choix du travail final de rédaction peut être choisi en fonction des besoins de chacun (par exemple : candidatures à des bourses, résumé en français d'un mémoire de maîtrise ou d'une thèse, résumé en français d'un article en japonais).</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
<p>Présence et participation 40%</p> <p>Travail de rédaction 60%</p>			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
<p>Textbook: Le matériel de cours sera distribué sous forme de photocopies.</p> <p>Reference book: Un dictionnaire est recommandé.</p>			
連絡先 【Contact Address】			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp, baumert@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 【Notes】			
Se référer aux instructions générales des cours d'Academic Writing pour les dates de début des cours et les salles. Il n'est pas nécessaire d'avoir suivi le cours "French Academic Writing I" pour s'inscrire. Le statut d'auditeur libre est également possible sous condition.			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	Fall	Mon	4
科目名 【Course Title】	担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】	
Chinese Academic Writing II	盧 建	A 1 2	
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
不分国籍，不分专业，凡想培养汉语思维、提高汉语论文写作技巧以及发表技巧的学生均可参加。最好具有一定的用汉语发表见解以及参加讨论的能力。			2
目的と目標 【Course Objective】			
这门课的主要目标是培养学生中文学术论文的写作能力。我们将从学生的实际出发，通过课程的系统训练，逐步引导学生建立汉语思维，并掌握汉语的语言习惯以及论文的写作技巧，以致达到能用中文发表论文的水平。课程计划分为前、后两个阶段，第一阶段是准备阶段，以培养学生的“汉语感觉”为目的，重点语言习惯的培养和思维能力的训练；第二阶段是实践阶段，以写作技巧为主线进行具体的指导与实践，争取在课程结束时，帮助学生完成一篇“名副其实”的中文小论文。			
内容と計画 【Course Content】			
<p>前期阶段：目的是为写论文作思维与语言上的准备。主要包括：（1）学术论文的基础知识储备（如：介绍各专业学术论文的特征、论文的写作流程、文章构成、论题选择等等）；（2）通过阅读优秀论文，介绍汉语学术论文的整体特征、格式、规范和要求；（3）介绍汉语的思维与语言习惯，从中、日、英对比的角度出发，分析作为一篇学术论文，中文篇章表现上的“约定俗成”以及语法规则和惯用表现的理据；（4）翻译练习，比较直接用汉语写成的论文和以翻译为中介手段而完成的中文论文二者之间的区别；（5）同源译文的分析对比；（6）通过母语进行逻辑思辨能力的训练；（7）如何确定选题；（8）如何撰写研究计划</p> <p>后期阶段：目的是以写作实践为主，一步步引导学生完成一篇小论文的写作。主要包括：</p> <p>（1）如何制定一个清晰、明确的中文标题；（2）如何简明扼要地概括论文中心论点；（3）如何建立论文的论证结构，并冠以明确的中文表述；（4）如何根据论题确定研究方法；（5）如何撰写论文提要（abstract）；（6）如何撰写“前言”和“结语”；（7）行文技巧（比如参考文献的文体、论据的筛选、“引用”的表述、汉语语料库以及资料的收集方法、网页等等）；（8）学会发表技巧</p> <p>※以上内容计划以学年为单位完成，分为前期课程和后期课程，不过具体实施上将根据学生的选修情况做时间及内容上的调整，以期使每位学生能学以致用。</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
<p>（1）出席次数在总课次的2 / 3以上；</p> <p>（2）课堂表现</p>			
教科書，参考書，参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
随堂布置			
連絡先 【Contact Address】			
lujian@ilas.nagoya-u.ac.jp lujian55578@hotmail.com			
連絡事項 【Notes】			
这是一个学习的课堂，也是大家练习学会发表以及交流的场所。课上学生们从自己的研究出发，互相启发，互相帮助，创设了一个很好的研究氛围。汉语非母语的学生，除了论文写作训练以外，还可以提高汉语的语言表达能力；中国留学生可以训练逻辑思辨能力以及提高论文的写作技巧。每周除了正常授课外，还有一节个别辅导时间，有需要的学生可以利用这个时间商谈论文或练习学会发表。有时候也会开研究发表会，供大家学术交流。总之，它就像一个“汉语之家”，欢迎更多的同学加入到我们的行列中。			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	Fall	Fri	4
科目名 【Course Title】	担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】	
English Academic Writing II	Deacon, (Robert) Joel	C 3 2	
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
(1) Graduate students who are able to take classes, and communicate, in English. (2) Preference will be given to those who are planning to submit abstracts to international conferences or journals.			2
目的と目標 【Course Objective】			
The purpose of Academic Writing is to prepare students to publish their work in academic journals. This course aims to further advance students' understanding of and ability to produce academic writing in English. Students will demonstrate that their arguments support their thesis statements, learn how to better present their work in the context of other scholarly research, and learn how to paraphrase and synthesis source material to buttress their arguments more effectively. This will involve critically evaluating previous research, effectively showing how their own research adds to previous research, and or how their research is useful. Ultimately the goal is to refine current work, creating a publishable paper for each student.			
内容と計画 【Course Content】			
<p>Students should come to class with their current research (an unpublished paper they are working on or have recently finished). This class will be very interactive. Lectures will be interwoven with activities, tasks, and questions. The course will cover the following lessons:</p> <p>Lesson 1: Who are we and what are we doing here? Review thesis statements and the basic organization of academic papers across several genres</p> <p>Lesson 2: Review plagiarism basics: spotting it and correcting it. (Due: thesis statement from current research + itinerary)</p> <p>Lesson 3: The Introduction: your proposals and your plan (Assign Students to Review Committees) (those students whose fields strictly follow section ordering can omit a written plan in their paper)</p> <p>Lesson 4: Literature review, summarizing, and critical analysis.</p> <p>Lesson 5: Common logical fallacies: critical advice.</p> <p>Lesson 6: Discussions, limitations and conclusions.</p> <p>Lesson 7: Peer review, choosing where to submit your work, blinding your work. (Due: Submit first drafts for blind review)</p> <p>Lesson 8: Writing Workshop 1: review committees in action. (Comments must be typed and attached to blinded manuscript)</p> <p>Lesson 9: Student Group Presentations on the review process. (Assign Students to New Review Committees)</p> <p>Lesson 10: Summary to abstract (2 kinds of abstracts: papers vs. conferences)</p> <p>Lesson 11: Writing Workshop 2 Focus on Abstracts: review committees back in action. (Comments must be typed and attached to blinded manuscript)</p> <p>Lesson 12: Writing Workshop 2 Focus on Abstracts: review committees back in action. (Comments must be typed and attached to blinded manuscript)</p> <p>Lesson 13: Student abstract presentations. (Due: Final Draft)</p> <p>Lesson 14: Student abstract presentations.</p> <p>Lesson 15: Review, reflection, and course evaluation.</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
<p>Students who need the course credits are required to meet the following conditions:</p> <p>(1) Thesis statement and plan (5%)</p> <p>(2) Group Presentation (5%)</p> <p>(3) Individual presentation: creating an abstract for a paper and one for a conference (20%)</p> <p>(4) First Draft of Paper (15%)</p> <p>(5) Final Draft of Paper (25%)</p> <p>(6) Participation and attendance (30%)</p>			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
Course materials will be made available to students by the instructor.			
連絡先 【Contact Address】			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 【Notes】			
<p>(1) Enrollment is capped at 20.</p> <p>(2) The first lesson of the course will commence on October 2, 2015.</p>			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	Fall	Fri	3
科目名 【Course Title】	担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】	
English Presentation II	Mark Weeks	A11	
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
Participation in Presentation I is NOT required in order to enter this course. Graduate students and researchers who are able to take classes and communicate functionally in English are eligible.			2
目的と目標 【Course Objective】			
<p>This course is directed towards graduate students and researchers in all fields and has the following practical goals:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to raise your drafting and practical delivery skills to a level where your presentations (or poster sessions) at an international level can be highly effective, low stress, even enjoyable. 2. to produce logically persuasive presentation abstracts, scripts and slides related to your research area that you can use as models for future international “real world” presentations. 3. to raise your confidence in general international communication, especially in academic contexts. 			
内容と計画 【Course Content】			
<p>Classes are conducted in English in an informal atmosphere. The emphasis is on student group and class discussion, presentation practice and constructive feedback. Some drafting of abstracts and scripts may be done during class time for close consultation and feedback. While emphasizing practice, classes are devoted to the following.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Introduction: reviewing fundamentals of academic presentations • Arguments and counterarguments in presentations • Writing successful abstracts/proposals • Presenting data effectively • Effective language use • Poster session techniques • Advanced visual design for clarity and impact • Advanced strategies for Q and A sessions • Socializing internationally in English <p>* 5-10 minutes is spent in each class practicing the common “small talk” of conferences. Students will be asked to deliver two presentations using slide software or other presentation aids in order to develop skills in presenting and handling question time. Detailed feedback will be given for further improvement.</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
<p>Participation 70% Two presentations 30%</p> <p>* Students are required to attend a minimum of 10 lessons in order to receive credits for the course.</p>			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
<p>All materials are prepared and provided by Mark. Electronic copies of key materials will be sent to students throughout the course. While some materials are original products of the instructor, the following sources are also used:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Adrian Wallwork, English for Presentations at International Conferences, New York: Springer, 2010. 2. Adrian Wallwork, English for Academic Correspondence and Socializing, New York, Springer, 2011. 3. Michael Alley, The Craft of Scientific Presentations, New York: Springer, 2003. 4. Garr Reynolds, Presentation Zen, Berkeley (CA): New Riders, 2008. 5. Garr Reynolds, Presentation Zen Design, Berkeley (CA): New Riders, 2010. <p>Reference book: It will be helpful to bring a dictionary for using English to classes.</p>			
連絡先 【Contact Address】			
weeks@lang.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 【Notes】			
<p>Academic presentations are an important, useful, even enjoyable opportunity to disseminate ideas, test theories and establish contact with other researchers. With that in mind, this course seeks to develop rigorous presentation structure, effective performance, and a greater awareness of the interactive nature of presentations in a supportive informal setting. The instructor will also provide practical support and advice for participants preparing to give academic presentations outside the course.</p> <p>* The Spring semester course “Presentation I” is not a prerequisite for taking this course.</p>			

年度(西暦) 【Year】	開講期 【Term】	曜日 【Day】	時限 【Period】
2015	Fall	Wed	2
科目名 【Course Title】	担当教員 【Instructor】	講義室 【Class room】	
English Presentation II	David Toohey	サブラボ B	
履修条件あるいは関連科目等 【Enrollment Conditions, etc.】			単位 【Credits】
This class is open to anyone who is interested in presenting projects that they are working on at academic conferences and can communicate at an academic level in spoken and written English. You may be from any academic discipline, though it is required that you have projects to present.			2
目的と目標 【Course Objective】			
This course is designed to improve students academic presentation skills. It incorporates students presentations of academic projects that they have already started and plan to present in other classes. These presentations are designed for students to use logical thinking skills to prioritize what information to present, how to present it, and how to answer audience questions. During these presentations, non-presenting students will be asked to evaluate the presenters. This achieves two goals: 1) for the presenters to get feedback from a variety of points of views; and 2) for students to consider which presentation styles they enjoy and what effective things they can incorporate into their own presentations.			
内容と計画 【Course Content】			
<p>This course uses lectures on logical presentation strategy which students incorporating into their own presentations. We will also watch videos of real-life academic presentations. Presentations and class participation (evaluation, questions, etc.) are emphasized. Through multiple presentations you will gain confidence and experience necessary to present at International conferences.</p> <p>Lesson 1: Course overview and video examples of academic presentations Lesson 2: Non-verbal skills (hand gesture, tone of voice, body language). Lesson 3: Effectively using graphs for handouts Lesson 4: How much information to include in handouts Lesson 5: When to use handouts and when not to use handouts Lesson 6: Student Presentations (Assignment #1) Lesson 7: Templates for PowerPoint presentations (What to include, what grammar to use) Lesson 8: What to avoid with PowerPoint presentations Lesson 9: Student Presentations (Assignment #2) Lesson 10: Using volume of voice and pauses to persuasively communicate content Lesson 11: Using facial expression and body language to persuasively communicate content Lesson 12: Using audio and visual materials to reinforce arguments and evidence Lesson 13: Short audio and visual presentations (assignment #3) Lesson 14: Effectively answering questions, what to expect and the logic of what and when to answer. Lesson 15: Mock question and answer sessions about student presentations</p>			
成績評価の方法と基準 【Grading Basis】			
Class attendance participation 60% Assignment # 1 (Presentation with Handouts) 15%; Assignment #2 (PowerPoint Presentation) 15% Assignment # 3 (Short Audio and Visual Presentations) 10%.			
教科書、参考書、参照情報等 【Textbook, Reference book, etc.】			
All reading materials are prepared by David (the teacher) and given to students in the class. It is required that students bring an appropriate number of handouts to class when they present. Students should bring English dictionaries to all classes.			
連絡先 【Contact Address】			
Office: 国際言語文化研究棟407号 E-mail: toohey@ilas.nagaoya-u.ac.jp			
連絡事項 【Notes】			
You need to attend at least 10 classes to pass this class. Also, be prepared to accept constructive criticism of your presentations; this is very important for being prepared to attend conferences and publishing. It is important that you give honest, constructive feedback to other students, even if they are from another academic disciplines that you are not familiar with.			

リーディング大学院のコースワークに入っているもの

平成 27 年 10 月 1 日現在

プログラム名	PhD プロ フェッショナル 登龍門	フロンティア 宇宙開拓 リーダー 養成	グリーン 自然科学 国際教育 研究	「ウェルビー ング in ア ジア」実現 のための 女性リー ダー育成	実世界 データ 循環学 リーダー 人材養成	法制度設 計・国際 的制度移 植専門家 の養成プ ログラム
体験型講義「リーダーシップ」	○	○	○	○	○	
体験型講義「チーム・ビルディング」	○	○	○	○	○	
体験型講義「マネジメント」	○	○	○		○	
体験型講義「エンプロイアビリティ」	○	○	○		○	
Relationships and Communication I (Seminar)	○	○	○	○		○
Relationships and Communication II (Seminar)	○	○	○	○		○
Personal Transformation	○	○	○	○		○
藝術リテラシー(絵画論Ⅰ)		○				
藝術リテラシー(絵画論Ⅱ)		○				
藝術リテラシー(音楽Ⅰ)		○				
藝術リテラシー(音楽Ⅱ)		○				
藝術リテラシー (レクチャーコンサートⅠ)		○				
藝術リテラシー (レクチャーコンサートⅡ)		○				
大学教員論			○			
研究のビジュアルデザイン			○		○	
アクティブラーニングの技法		○*	○		○	
英語(アカデミック・ライティング)Ⅰ			○	○	○	
英語(アカデミック・ライティング)Ⅱ			○	○	○	
ドイツ語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
ドイツ語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
フランス語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
フランス語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
中国語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
中国語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
英語(アカデミック・プレゼンテーション)Ⅰ			○	○	○	
英語(アカデミック・プレゼンテーション)Ⅱ			○	○	○	
アカデミックライティングと研究の倫理	○	○	○	○		○

*フロンティア宇宙のリーダー養成セミナー カテゴリー5の出席1回分に相当

受講申請票 Registration Application Form

✂ CUT

大学院共通科目 受講申請票 Graduate School Common Courses Registration Application Form	曜日 Day	時限 Period	授業科目名 Course Title				教員名 Instructor's name			
	研究科 Graduate School							フリガナ氏名 Name		
	学生番号 Student Number									
授業担当教員各位 当該学生の受講を許可されましたら、この受講申請票を受け取り控えとしてお持ちください。 なお、この学生は Web システムによる履修登録あるいは成績登録の対象外ですので、受講者名簿等には記載されません。 成績報告表等は別途お送りいたします。 For Instructors When you allow the student to take the course, keep this "Registration Application Form" the student submitted as a receipt. Also, since this student is not officially enrolled in the web system or the grading system, the student's name will not be included in the class registration list. You will receive the grade report chart later on.										

✂ CUT

大学院共通科目 受講申請票 Graduate School Common Courses Registration Application Form	曜日 Day	時限 Period	授業科目名 Course Title				教員名 Instructor's name			
	研究科 Graduate School							フリガナ氏名 Name		
	学生番号 Student Number									
授業担当教員各位 当該学生の受講を許可されましたら、この受講申請票を受け取り控えとしてお持ちください。 なお、この学生は Web システムによる履修登録あるいは成績登録の対象外ですので、受講者名簿等には記載されません。 成績報告表等は別途お送りいたします。 For Instructors When you allow the student to take the course, keep this "Registration Application Form" the student submitted as a receipt. Also, since this student is not officially enrolled in the web system or the grading system, the student's name will not be included in the class registration list. You will receive the grade report chart later on.										

✂ CUT

大学院共通科目とは

教養教育院では、平成 23 年度より「国際社会に通用する語学力を養成し、社会変化に対応し得る高度で知的な能力及び素養を備える人材の育成を図る」ことを目的として大学院共通科目を開講しており、平成 27 年度においても、本冊子のとおり開講いたします。

大学院共通科目は、「博士課程教育リーディングプログラム」*に対応した特色のある講義内容となっており、多くの大学院生に受講していただきたいと考えております。

なお、修得した単位がどのように扱われるかは、所属研究科の教務担当係で確認してください。

*「博士課程教育リーディングプログラム」

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的としています。

名古屋大学教養教育院 教養教育推進室
TEL:052-789-4725 FAX:052-789-3527